

〔曲名〕 Tramonto d'Autunno

Il Tramonto Ave Maria Ballo sull'Aia

晩秋

〔曲種〕 fantasia

〔作曲者〕 Giuseppe Manente

ジュゼッペ マネンテ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

本曲はミラノのイル・プレノトロ誌主催の第一回作曲コンクールに入賞した三楽章の幻想曲で1908年4月に同誌上で発表せられたもの。

本曲の訳名は武井氏によって初め「秋の夕暮」後に「晩秋」が適当と改められた。

曲名としては確かに「晩秋」は好ましいが日本語の晩秋をイタリア語に訳した場合Tramonto D'Autunnoとはなりにくい。

私はやはり素直に秋の夕暮でよいと思うが、もう本邦ス楽界では通っているので敬意を表し「晩秋」とした。

第一楽章黄昏とアヴェマリアは続けて演奏されるが

冒頭と終りの第二マンドリンとマンドラとは四分音符の単一な打法だけで夕暮に村に帰る牧羊を表現させている。

その上作者はこの通りカムパネラを加えることを望んでいる。

それが果して一層の効果を挙げ得るかどうかは解らないが、

この単一な手法が静寂な而も広漠たる田園情緒をかもし出すことは驚くべきものがある。

ギターによる和音は特に楽譜通りに消音されない方がよい。

Tuttiの部分は野良から帰る農夫の歌声。

アヴェマリアに入り教会堂の鐘が鳴る。

続いてオルガンの響き、この部分のギターのトレモロは又特別の効果がある。

やがてギターの伴奏によるユニソンの祈りが続くが斉奏の効果を之ほどに挙げるものを知らない。

静かに敬虔（けいけん）にオルガンの響きが残って終る。

第三楽章はタランテルラであるが、この部分にカスタネット、タムボリン、トライアングルが入る。

之は原スコアに示されていないが発表当時パート譜として特別に書き譜（マヌスクリプト）で頒布されたもので

他の人によってあとから書き加えられたものではない。

尚第三楽章は打穀台上の踊りとなっているが、特別の台があるわけではなく、

石灰、赤土などににがりを混ぜ水を加えて練り上げて叩き固めた場所を指す。

このタランテルラは技術的に見てへたな独奏曲よりずっと難しい。

1970年7月20日発行

イタリアマンドリン百曲選第7集より